

人権啓発映像教材

みんな笑顔になる日まで

— 解説書 —

登場人物表



西崎葵(14)

若年性認知症の父と幼い妹のケアに追われる
ヤングケアラー



伸行(49)

葵の父。若年性認知症を患っている



香織(46)

葵の母。仕事に追われている



由奈(5)

葵の妹



藤川美咲(45)

スーパーで働く近所の住民



裕之(45)

美咲の夫



山園文子(62)

民生委員・児童委員を務める



吉田大翔(14)

葵の同級生



マリア(16)

海外出身のヤングケアラー

出典:三菱UFJ リサーチ&コンサルティング

2021 『ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書(令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業)』

粟田主一「若年性認知症の有病率・生活実態把握と多元的データ共有システム」

日本医療研究開発機構(AMED)2020

「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている18歳未満の子供」と定義します。身体的介護のみならず、見守りや感情面のサポートもケアに該当します。

■ 中学2年生で5.7%、全日制高校2年生の4.1%で「世話をしている家族が『いる』」と答えており、平日1日あたり世話に費やす時間は、中学2年生で平均4.0時間、全日制高校2年生で平均3.8時間です。また、18歳からおおむね30歳代までを「若者ケアラー」と呼び、同じく切れ目のない支援が必要とされています。

■ 家族の世話をしていることで健康状態や学生生活に支障をきたしているという結果が出ています。特に世話が長時間にわたる場合は、その影響が大きくなります。

ヤングケアラーはこんな子どもたちです

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもをいいます。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

©一般社団法人日本ケアラー連盟 / illustration : Izumi Shiga

■ 学校をはじめ社会福祉協議会、行政サービス、地域包括支援センター、民生委員・児童委員など支援を受けられる団体は様々にあります。地域でヤングケアラーを見守る支援としては、当事者グループのような場所があれば、立場の近い誰かと出会う機会が生まれます。ヤングケアラーが担うことが多い家事や食事の支援をすることも助けとなります。

■ 一方でヤングケアラーにとって家族のケアをすることが本人の生きがいになっていることもあるため、ケアについて否定したり、取り上げたりすることは好ましくありません。ヤングケアラーと思われる子供がいた際には、話を聞いたり見守ったりしていくことが大切です。

若年性認知症

認知症は、様々な脳の病気により、認知機能が低下して、日常生活に支障をきたした状態をいいます。このうち、65歳未満で発症した場合を「若年性認知症」と定義します。

- 若年性認知症は就労や子育てをしている時期に発症することが多く、配偶者やその子供など家族全体に負担がのしかかることがあります。負担が大きくなると、配偶者も十分に仕事ができなくなったり、子供は学業や交友関係に支障をきたす可能性があり、そのような場合、身体的・精神的・経済的に苦しむこととなります。
- 若年性認知症の場合、現役で仕事や家事をしている人が多く、認知機能が低下すれば支障が出て気づかれやすいと考えられます。しかしながら、何らかの問題があったとしても、どこの医療機関に行ってもよいかわからないことが多く、産業医などから受診をすすめられないと病院に行かないなど、早期に医療機関にかかることが難しいことがあります。
- 受診したとしても、更年期障害やうつ病など誤った診断を受けてしまい、症状が目立つようになってから、ようやく若年性認知症だと診断されるケースも少なくありません。

高齢者の認知症と異なる部分は？

- ・発症年齢が若い
- ・初期症状は多様であり、診断が難しい
- ・経済的問題が大きい

就労に関する支援

ある調査によると、若年性認知症の患者のうち、就労している人は全体の10.4%で、半数以上の55.9%の人が定年前に自己退職したという結果があります。

しかしながら、就労中に若年性認知症を発症した場合でも、退職せずに配置転換をする、障害者雇用枠に入るなど、同じ会社で就労を継続する選択肢があります。本人が就労を継続するためには、人事担当者、同僚、上司、産業医など周囲の人々の理解と協力が欠かせません。

本人の症状にあわせた勤務体系や業務内容などの職場環境の構築が重要です。

日常生活での工夫

よく使うものは決まった場所に置く、重要な情報は見やすい場所に貼っておく、物忘れを防ぐためにメモをとるなど本人にあわせて工夫をすることで、困りごとが改善できる場合があります。

若年性認知症の当事者会や認知症カフェなど、本人の生きがいや仲間づくりになるような場所に参加することも有効です。



場面やセリフから考えてみましょう

夜遅く疲れきった母親の香織が帰宅するー

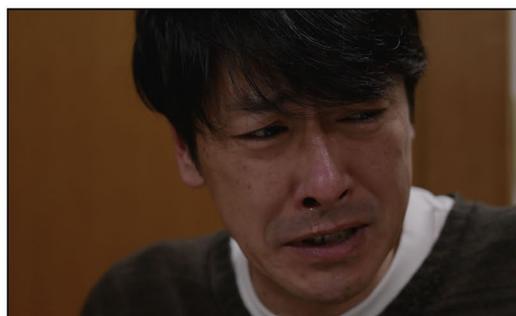
香織: はぁ 疲れた…あぁ もう クタクタ…
葵: 私もずっと家のことやってたよ。
本当はテスト勉強しなきゃダメなんだけど…
香織: 葵がいてくれてお母さん本当に助かってる。
お母さん、もっともっと頑張るから
みんなでお父さんを支えていこうね
葵: ……うん



日頃、葵は家事や妹の世話を文句ひとつ言わずにこなしていましたが、このとき思わず苦労を漏らしました。しかし仕事による疲れのあまり香織はその思いに気づきません。ヤングケアラー当事者だけでなく、その家族も同様に負担を抱えていることも少なくありません。

家からいなくなった伸行を無事見つけ出した夜

伸行: ごめん…本当に申し訳ない…
香織: もういいって何ごともなかったんだから
…でも 何でスーツ着て出かけたの?
伸行: ハローワークに行こうと思った
香織: え?
伸行: 俺…できないこともあるけどできることだって まだまだあるんだ体力だってある
…なのに みんなに…負担ばかり。俺さぁ…情けなくて…悔しくて…
香織: 負担だなんて…
伸行: ううっ…働きたい…どんな小さなことでもいいから 人の役に立ちたい。
それすら…認知症の人間には 許されないのか?



以前はエンジニアとして働いていた伸行。現在は若年性認知症の症状の影響で就労はしていません。しかしながら、若年性認知症だからといって何もできなくなったわけではなく、周りのサポートがあれば社会参画は可能です。本作品では、こども食堂で、誰もできなかったキッチンタイマーの修理ができたという事例を描いています。

実際に取り組まれている就労支援や生きがいづくり

- ・DM封入、袋詰めなどの軽作業
- ・清掃や農家の手伝いなどのボランティア
- ・こども食堂スタッフ
- ・パソコン入力作業・ホームページ作成など

出典:厚生労働省
「若年性認知症支援コーディネーターのためのサポートブック」

ワークシート

次の用語についてあなたが知っていることを書いてみましょう

- ・ヤングケアラー
- ・若年性認知症
- ・こども食堂

本作品で感じたことや疑問に思ったことを書いてみましょう。

もし身近にヤングケアラーがいた場合、あなたならどんなことができると思いますか。